

東原遺跡通信 No.2

ひがしぼらいせきつうしん

2009年8月21日

竪穴住居跡の調査が進んでいます



踏切北側のA工区では、南側から竪穴住居跡を中心に調査を進めています。現在、竪穴住居跡7軒分の調査が終了しました。大きさは一辺が約4～5m、角を丸めた正方形や楕円形に近い形をしています。一部の住居跡では柱穴（ちゅうけつ：はしらを立てた穴）が確認され、掘りくぼめられた床の上からは、多数の弥生土器のかけらや、炉跡の焼土（煮炊きをして赤く焼けた土）などが出土しています。

<調査の手順>



① 土の堆積状況が分かるように十字にあぜを残して床の面を掘ります。



② あぜをはずして、出土した土器をきれいに掘り出します。

住居跡からは、下の写真のように集中して土器が出土する所もあります。



表面が黒い土器は、鍋のように煮炊きに使用われ、すすが付いて黒くなっています。



③ 土器の出土状態を図面に記録します。



④ 土器をすべて取り上げ、測量して調査完了です。

地域みなさんが見学に訪れています



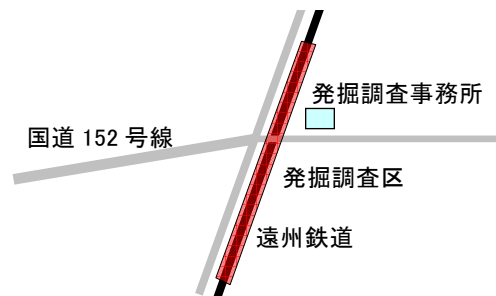
通りかかった地域の方や、夏休み中の子どもたちが調査現場を訪れ、発掘調査の様子や竪穴住居跡、出土した土器などを興味深けに見学しています。

先日は中学校の先生方が研修で、発掘調査を体験していきました。

みなさんも東原遺跡を一度見学してみませんか？

遺跡の見学について

遺跡の発掘作業は平日、午前8時30分～午後4時30分に実施しています（雨天時は作業を休止します）。作業時間内でしたら、調査現場は見学いただけます。



編集発行
現地連絡先

浜松市埋蔵文化財調査事務所
東原遺跡調査事務所

TEL485-3465
TEL586-1233